

## 第1回石巻市総合計画審議会 会議録

■日 時 令和元年12月11日（水） 午後6時～午後7時45分

■会 場 石巻市役所4階 庁議室

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 開会

2 委嘱状交付

市長から委員へ委嘱状を交付

会議開催について

委員数20名に対して15名が出席しており会議は成立

3 市長あいさつ

4 会長及び副会長の選出

岩田司委員を会長に、大槻英夫委員を副会長に選出

会長あいさつ

5 諮問

6 議事 報告事項

(1) 石巻市総合計画審議会について（説明：復興政策課）資料1

質疑応答 なし

---

(2) 第2次石巻市総合計画策定方針について（説明：復興政策課）

資料2～4、7

質疑応答

会 長：震災からもうすぐ10年となる。この時期に基本構想を考えるのは重要なこと  
だと思ふ。

委 員：進行管理について、現在の総合計画にはまちづくり指標という目標数値が入  
っている。その指標が現在どのようになっているのか、現在の総合計画の進行  
管理をどう行っているか。

また、次期計画において、推進本部と外部の推進会議では、どのように進行  
管理を行う予定か。数値目標を掲げることになると思うが、庁外の方々にどの

ように進行管理をしてもらうのか。

事務局：現在の総合計画には指標が立っているが、震災の影響で震災復興基本計画を策定したこともあり、10年後の指標チェックはできていない。本来継続して進行管理を行うべきものではあったが、新たな計画策定にあたり、現時点でのチェックを行い現計画の評価検証に取り組んでいる。それらの結果を次期計画へと反映させていきたい。

石巻市の特徴として、震災復興基本計画の進捗を最優先で取り組んできている。総合計画から震災復興基本計画へ移行して進めた事業もあることから、総合計画と震災復興基本計画の2つの計画について検証を行い、新しい計画の策定に反映させたい。現在、6つの専門部会を中心に検証を行っており、その結果については審議会に報告させていただきたい。

また、現行計画の進行管理については、まち・ひと・しごと創生総合戦略において、指標KPIを設定し外部委員に評価していただいているが、総合計画については、そこまでの指標設定・管理をしていない。新しい計画では、検証の目標となる指標をしっかりと設定した上で、指標の達成度合いを評価できる組織を庁内・庁外の両方に設置し、PDCAを重要視しながら、検証した結果を次年度につなげていくサイクルを構築していきたい。

委員：市民の意向をどれだけ組み入れるのか。計画が固まった段階で議論するのは意味がないと思う。どのような形で市民の意見を反映させるのか。

事務局：資料3でお示ししたが、市民参画という部分がある。こちらでは市民ワークショップを実施する予定である。市民の皆様からご意見をいただくために、一般市民を対象とした市民ワークショップ、高校生・大学生を対象とした未来ワークショップを予定している。現在公募を行っている。関係団体などに声をかけるなどして、多くの市民の皆様のご意見を反映させる体制をとっていききたい。

委員：一番大事なのは、例えば、教育に関心ある人をどうやって集めるか、各専門分野だけが関係者だけではない。広く関心がある人の意見をどう組み入れるか考えていただきたい。

事務局：一番大事な点だと考える。積極的に参加していただけるよう、広い分野の方に出席してもらうように努めたい。

委員：審議会委員について、教育関係の代表は誰になるのか。

事務局：委員については事務局でも検討した結果であるが。

会長：ワークショップで学校との関わりもあることから、その機会などを利用して教育関係の意見を汲み上げるようにしてもらいたい。

委員：質問ではないが、SDGsの達成に向けた観点を取り入れた計画とするのはよいと思う。SDGsは資料を見て勉強したが、広がりを見て、つながりを持つという点でよいと思う。是非、この点に力を入れて計画を策定いただきたい。

---

(3) アンケート調査について、(4) 市民ワークショップについて (説明：復興政策課) 資料5、6

## 質疑応答

会 長 : それぞれの世代の意見を把握する必要があると思うが、アンケートは世帯主に行っているのか。

事務局 : 住民に対して実施している。世帯主ということではなく、住民単位で無作為に抽出している。年代や地域も考慮している。

会 長 : 中心市街地と周辺とでは環境が違うので、違いを把握できると良い。  
半島部の人市外に行ってしまうよりは市街地に来て欲しいという考えがあると思う。

ワークショップのメンバーは同じで進めるのか。また、バランスをとる抽選になるのか。

事務局 : 同じメンバーで議論を続けていくことを想定している。

会 長 : 分野ごとにバランスをとってもらいたい。

事務局 : 分野のバランスをとって抽選する予定である。

委 員 : 無作為抽出はよいと思うが、各地域それぞれ何名を抽出しているか、数字があれば教えていただきたい。

事務局 : 人口が少ない地域もあるため、最低 150 名が抽出できるように抽出している。  
旧石巻市 1,774 名、河北 229、雄勝 150、河南 395 桃生 150、北上 153、牡鹿 151 となっている。回収率 30%を想定して抽出している。

委 員 : ワークショップについて、専門部会が 6 あり、そのうちの関心のある分野 5 となっているが、行財政部分が抜けているのはなぜか。また、一般市民で 30 名、高校生・大学生で 20 名となっているが、1 グループ 3・4 人の人数で話し合うことになり、少し少ないのではないかと感じる。

事務局 : 行財政については、議論が難しいと考えて除外した。

また、1 グループ 6 人程度になるので議論は可能と考える。

委 員 : 施設の維持管理にコストがかかるなど、市の財政は厳しくなっていくと思うが、そういった部分について、公開しながら市民に議論していただくことが大切ではないかと感じる。

事務局 : 専門的な話になるため、困難であると判断した。事務局でも検討を行いたい。

会 長 : 5 分野にはそれぞれ財政的な内容が関わってくる。ワークショップは通常 1 グループ 5・6~10 人くらいであると思う。もう少し増やせばよいかもしれないが、ファシリテーターも増やさなければならない。

委 員 : ワークショップは夜の開催になると、旧 6 町など遠方の方が参加しにくい。各地から集まるのであれば、土日に開催するのが望ましいのではないかと感じる。また、倍まではいかなくとも、もう少し数を増やしてもらいたい。

事務局 : 今後声掛けを行いながら、人数を確保していきたい。1 回目は平日の設定としたが、2 回目以降は参加者の意向を聞いて多くの方が集まることが出来る日程・時間設定を考えたい。

会 長 : 広く参加ができるよう、事務局で考慮願いたい。

委 員 : 政策コンテストにも何回か顔を出しているが、回数を重ねると参加者が減っ

てくる。参加する人の達成感につながるようやり方を工夫して欲しい。事務局も大変だと思うが、参加者の達成感に繋がっているのか、自分たちの意見が反映されているのか、振り返りながら進め方を考えていただきたい。

事務局：政策コンテストは今年で4回目となるが、今年度、コンテストの発表内容を実際の政策につなげること、自分たちの意見がどうなったか参加者に伝えることに取り組んでいる。今回のワークショップについても、参加された方の意見がどのように反映されるのか伝わるように進めていきたい。

委員：ワークショップの意見のまとめ方について、震災後、数多くのワークショップが開催され、参加してきた。人が少なくなるのは、自分の提案がどこに反映されたのか明確でないことがひとつの原因であると考え。また、テーマによって専門的なもの、地域的なもの、それがどれだけ反映できるか、的確な意見の集約をお願いしたい。

事務局：ファシリテーターが重要だと考える。出された意見が参加者にフィードバックするように心がけたい。

委員：ワークショップのお知らせはどこで配られているのか。各学校には配布しているのか。

事務局：まずは市報やホームページで周知している。そのほか、総合支所はじめ公共施設に設置している。未来ワークショップについては市内の高校にお願いして、参加してもらうこととしている。

委員：いつから公募が始まっているのか。また、申し込みは何人か。

事務局：公募は12月1日から始めているが、現在の申込みは1名となっている。事務局としては直接働きかけを行い、幅広い分野の方に参加いただけるよう努めていく必要があると考えている。

委員：30名募集とのことだが、他に声をかけた人と合同し、例えば総勢100人で行うということではなく、30人で行うワークショップであるということか。

事務局：ワークショップの人数に関しては、30名程度で議論を重ねていくという考え方である。説明会などではより多くの方の参加を考えている。

委員：総数としては少なく感じる。1つのテーマに5~6名では少ないのではないか。例えば1~3回目の内容を何クールか繰り返すことで、100~150人の意向を拾うことができると思う。100人規模のワークショップは現実的に難しいと思うが、これだけの人数では少ないという印象である。

また、行財政の分野について、市のホームページで財政資料を見て不安に思っている人たちもいる。これからの地域づくりにおいて、経済や地域を運営するような視点が必要となってくる。そういう分科会は今後の新しい形ではないか。

会長：ワークショップは対決姿勢があると元気がでる。元気な人に集まってもらうよう工夫が必要である。

事務局：本日の意見を踏まえ、ワークショップの進め方について検討を行いたい。

会長：行財政の分野については組織体全体が変わっていかないと持たないのはわかっている。自分が携わってやっている例では、会津坂下町が昔の村役場を地域

のコミュニティが運営し、町がそれに補助を行うシステムを実践している。例えば雪かきを自分たちでやるとか。そのように、自分たちで出来ることは自分たちですという方向になっていくと思う。行財政の議論は大変だと思うが、その考えを注入するようなことは是非やっていただきたい。

事務局：これからは歳入に見合った行政運営をしていかなければならない。今後人口が減少方向に進み、地域共生社会ということもあるため、地域でできることは何か、地域の役割を市民の方と共に検討していくことができればと考えている。

委員：何をやるにしても財政的な裏付けがないとできない。使えるお金がどのようになっているか、それがわからないと計画は作れない。ワークショップでは抜くという考えかもしれないが、市民から行財政に係る意見も聞く必要があるのではないか。

会長：ワークショップの中で、財政の話をしてしまうとその後の意見が出にくくなることもある。意見が出た上で、自分たちでできる部分を考えていく方法もあると思う。

事務局：財政的な現状・今後の見通しなどを説明した上で、ワークショップを進める方法も検討していきたい。

委員：皆さんの話を伺う中で、財政とやりたい事とどちらが先か、審議会の中で詰まっていないと感じる。何回かこの中でも話し合う必要があると感じる。

委員：SDGsの基本的な考え方は持続可能な開発目標である。10年後、20年後のあるべき姿からバックキャストしていくやり方だ。市の財政の中でフォアキャストする考え方はどうしても現実的な考え方となる。今回はSDGsの観点を取り入れ、石巻がどの方向に向かっていくのか、石巻のあらゆる業種がベクトルを合せて、全国へ発信できる姿をつくれればよいと感じている。何か尖った方向に向かって、石巻モデルを構築できるようにしたら面白い。予算確保ということであれば、最近であればクラウドファンディングや、民間からの投資という方法もあるかもしれない。フォアキャスト、バックキャスト両方大事であるが、大切なのは基本目標の設定にある。現計画の目標をみると、石巻市だけではなく他の市町村と似たような目標にも見える。結局はこういう目標に落ち着くのかかもしれないが、ワークショップを実施する上で、ファシリテーターの方と審議会で意見を共有できればと思う。

委員：財政的な議論は必要であると思うが、ワークショップで財政の話を入れてしまうと、意見が出なくなるのではないかと懸念している。政策コンテストも財政的なものがあるので学生がついてこれなくなってしまう。ワークショップでは夢を市民に語ってもらい、それを市がどのように実現していくかが大事だと思う。

会長：各委員の意見を踏まえ、全体の構成の中で、財政は厳しいがどうやったら市政を運営していけるのか考える機会をつくって進めてほしい。

今までの意見について2つほど。1つは、高松の丸亀商店街について、高松は50万人くらいいるが、診療所付きマンションが爆発的に売れ、周辺の人口

が増えている。そのとき理事長は、「若者がきてほしいと言っているが、古い商店街に高齢者以外だれがくるかと思い、割り切った」と言っていた。そのような発想の転換が必要であり、財政についても市民に押し付けるわけではないが、市民にもしっかり考えてもらう、この2つの考えが重要だと思う。

---

## 7 その他

次回の日程について確認

## 8 閉会

副会長から閉会のあいさつ

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	氏 名	所 属	備 考
1	岩田 司	東北大学災害科学国際研究所 教授	会長 出席
2	大槻 英夫	社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 会長	副会長 出席
3	関根 慎吾	石巻専修大学経営学部 教授	出席
4	鈴木 康夫	東北福祉大学総合マネジメント学部 学部長・教授	出席
5	佐藤 伸吾	国土交通省東北地方整備局北上川下流河 川事務所 所長	出席
6	高橋 剛彦	宮城県東部地方振興事務所 所長	出席
7	青木 八州	石巻商工会議所 会頭	出席
8	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会 会長	出席
9	松川 孝行	いしのまき農業協同組合 代表理事組 合長	欠席
10	伊藤 和男	特定非営利活動法人石巻市スポーツ協会 会長	出席
11	西條 允敏	石巻市文化協会 会長	出席
12	齋藤 光智	一般社団法人石巻青年会議所 理事長	欠席
13	千葉 陽子	石巻市女性活躍推進会議 副会長	欠席
14	木村 民男	石巻市子ども子育て会議 会長	出席
15	佐々木 清勝	河北地域まちづくり委員会 会長	出席
16	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会 副会長	欠席
17	今野 まゆみ	河南地域まちづくり委員会 委員	出席
18	伊藤 桂子	桃生地域まちづくり委員会 副会長	出席
19	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会 委員	出席
20	後藤 ゆか	牡鹿地域まちづくり委員会 副会長	欠席

(令和元年12月11日現在) (敬称略)